



1学期が終了しました

校長 尾後貫 智

爽やかなオランダの夏が静かに進んでいます。個人懇談が終了し、水泳教室を昨日終えて、本日でアムステルダム日本人学校の第1学期が終了しました。保護者の皆様の日ごろの学校教育へのご理解・ご協力に支えられて、無事に1学期の終了の日を迎えることができましたこと、厚く感謝申し上げます。

【終業式で話したこと（抜粋）】

みなさん、今日で第1学期が終わります。4月の始業式ではアムステルダム日本人学校の「校訓」についてみなさんにお話ししました。3つの校訓について考えながら少し1学期を振り返ってみましょう。

強く（強さ） くじけず努力すること、新しいことに挑戦すること。

明るく（明るさ） いつも笑顔と前向きな態度を持つこと。

豊かに（豊かさ） いろいろな人の思いを感じることができること、思いやりを持ってまわりの人に接することができること。

この3つの校訓についてみなさんは1学期の間頑張れましたか。

めあてを持って頑張るみなさんの姿を私は毎日学校の中でよく見かけました。

笑顔で友だちと話したり、一緒に活動する姿を学習や行事の中でたくさん見かけました。

相手を思いやる優しい言葉かけ、自分がしてもらったことに対して気づいて感謝の言葉を言うみなさんの姿にもたくさん出くわしました。

この1学期は、どの学年もみなさんの強さ、明るさ、豊かさがあふれていた4ヶ月だったと思います。みなさん、本当によく頑張りました。

それと同時に、一人一人の課題、クラスの課題も見えてきたのではないのでしょうか。2学期はその課題を見据えてさらに成長できるようにまたみんなで頑張っていきましょう。

さて、明日から皆さんが楽しみにしていた夏休みが始まります。教室で担任の先生から夏休みの過ごし方について話があったと思います。約束事をしっかり守って楽しい夏休みを迎えてください。

終業式の後、本日で転出となる14人の子どもたちと全員で別れを惜しみました。アムステルダム日本人学校でこれまでにがんばってきたように、次の学校へ行っても引き続きがんばることを期待して、みんなで励ましてお別れしました。

テストメールの送受信、ご協力ありがとうございました

7月19日に実施いたしました緊急メールの送受信は、全家庭からその日のうちに返信をいただきました。ご協力、誠にありがとうございました。予定通り正午に一斉にメールを配信しましたが、一部サーバーエラーが発生したため、少し遅れて届いた方もいらっしゃったと思います。お詫びいたします。

ほとんどの保護者の方が、件名のところにお子さんの名前をアルファベットで記入していただいていたのですが、そのあとの「a」をお忘れになっているメールが少なからずありました。実際の安否確認の場合、お子様のお名前だけの返信では状態の判断がつきかねますので、必ず「a」無事、「b」けが・負傷、「c」その他の記号を入れてくださいますようお願いいたします。

夏休みを迎えるにあたって

先週7月14日付けの学校だより「ふうしゃ」第11号に夏休みの生活についてお知らせいたしました。これは、ただ家庭に配布するだけのおたよりではなく、子どもたちが家に持ち帰る前に一旦担任より「夏休みの過ごし方」に書かれていることをもとにして、子どもたちへ指導しました。子どもたちが夏休みを有意義に過ごせますよう、各ご家庭でも、子どもたちと話し合ってお確認下さい。

加藤諦三 名言集

- 1 人は、他人の言葉では傷つきません。自分で自分を傷つけているのです
- 2 子どもをからかう人々は、親として自信がない人です
- 3 子どもは正義では育ちません。自分の心を親が酌み取ってくれることで成長します
- 4 子どもは、いつでもどこでも“親に接することができる”という安心感が重要です
- 5 親の心の問題は、子どもを通して現れてきます
- 6 子どもが親の役割を背負ってしまうことがあります。子どもの心は破壊されます
- 7 親が「自分の子どもを誇りに思うこと」 子どもはこれで成長していきます
- 8 親が幸せにならなければ、子育てはできません
- 9 『子どもが駄々をこねる』ということは、子育てが上手くいっている証拠です
- 10 ごく普通の生活をするには、なんでもないように思えますが、実は、大変な努力と心の成長を必要とするものです。

加藤諦三：日本の社会学者、評論家、早稲田大学理工学部名誉教授。テレフォン人生相談のパーソナリティーを1980年代から未だに続けている。リスナーの間では「加藤先生の神回答」と絶賛され精神分析学を基にした非常に的確な分析が評判である。